

たけはな荘 地域連携推進会議 議事録

会議日時	令和7年8月7日（木） 15:50～16:20 たけはな荘視察 16:30～17:40 会議
会議場所	日中活動支援センターたけはな会議室
出席者	利用者：山北良三 保護者：福原満江 地域関係者：長谷幸雄 有識者：浅野善信 共同生活はしま たけはな荘：竹川早江子・須藤滋・小林大介
会議目的 会議内容	①前回会議の振り返り 前回、指摘・アドバイスを頂いた事柄に関する進捗状況 ②施設視察所見 ③グループホームでの安心・安全な暮らしとは何か ④その他
議事の経過 質疑応答	【① 前回会議の振り返り・前回、指摘・アドバイスを頂いた事柄に関する進捗状況】 ＊前回の会議で指摘のあった、①修繕の件、②利用者様の余暇活動の充実について、③地域の防災行事への参加について、進捗状況の報告をおこなった。 ＊床のへこみの修繕、シャワーホースとシャワーヘッドの取替えは、対応済みとなっている。 ＊詩吟を楽しみたいと希望されていた利用者様について、参加できる詩吟の講座やサークル等の有無を市が発行している生涯学習情報誌で確認したが、土日に参加できる講座やサークルは無かった。まだ希望に添えていない。 ＊地域の防災行事への参加については、9月中旬に自治会の防災訓練、9月28日に防災フェス、10月26日に南部地域の防災訓練に参加するよう、調整している。 【② 施設視察所見】 ＊共有スペースの当番制、しっかりとやっていると感じた。施設側が準備してサービスを提供することが多いかもしれないが、共同生活での役割分担も大切。 ＊利用者の水回りの使用方法については、職員もだいぶ苦労されているようである。 ＊グループホームでは、自ら目的・意識的に生活できると充実感を得られると思う。 ＊前回課題も含めて職員が少しずつ改善に取り組んでくれていることに敬意を表する。 ＊利用者の居室や共同スペースが暑く、本人も厚着をしていたが、職員が涼をとるよう、よく誘導していた。夏は涼しい環境で過ごさないと体調を崩してしまうことがあるということを他の人からも伝えてもらってみたい。 ＊日当たりが良い分、夏は暑くなる。世話人さんも調理作業をしていると火も使うので暑くなる。もう少し、自動的に調温ができると良いのではないかな。前回の視察は冬だったが、夏特有の発見があって良かった。 ＊水回りの利用方法の件など、職員が苦労しているが、利用者ファーストの暮らしを継続していけると良いと思う。 ＊グループホームは世話人の支援がないと成り立たない。感謝している。 ＊厚着をしていた人もいた件、体感温度は人によって異なるが、本人の意思をどこまで尊重・許容するかが大切ではないかな。世話人や職員がいろいろと気を遣ってくれてい

る。視察の機会があつてとても良かった。

* 気になっていたことは何年経っても変わっていない。本人が理解しやすいように話の持って行き方がある。これからの関りにつなげていきたい。

* 最初に帰荘する人は暑いと思う。猛暑なので、14:00 頃からの対策が必要だと感じた。涼しく過ごすには半袖の衣服を着用することが一番だが、半袖の服を着用しながらない人もいる。日常生活の環境も考えないといけない。

* 荘に帰ってきた時に部屋のエアコンのスイッチは入れるが、リビングのエアコンのスイッチは入れていない。リビングのスイッチを入れても良いようであれば、入れ方を教えてもらえれば、リビングのエアコンのスイッチを入れるようにする。

* 生活するうえで困っていることは、お互いの都合や生活もあるので、なかなか言い出せない。我慢して消化している。

* この件については、後ほどの事例も踏まえて協議することとする。

【③ グループホームでの安心・安全な暮らしとは何か】

グループホームでのトラブル事例を報告し、検討をおこなった。

【事例の概要】

自立した生活を目指して新たに入居した利用者Aに対して、以前より入居していた利用者BがAの部屋の扉を用もないのに頻繁に叩く嫌がらせをおこなうようになった。利用者Aから相談を受けた世話人や職員らがBに注意を促すが、利用者Bの行為は止まず、利用者Aも精神的に悩んでいたこともあり、利用者Aの保護者が相談機関に相談した後、Aは退去することとなった。

【テーマ】

なぜ、利用者Bの行為を止めさせることができなかったのか、再発防止に向けてどのようにすればよいか。

* 利用者全員が安心して暮らせることが大切。利用者Bに用もないのに他室のドアを叩く行為は良くないと伝えたところ、「利用者Aのドアの開閉時の音がうるさい」と言われた。

* 元々、利用者Bはアパートでひとり暮らしをしていたが、近隣トラブルを重ねていた。

* 利用者Bは自立度が高く、福祉作業所へ通勤し、食事は自宅で摂るなど、他の利用者や職員とあまり交流を持たない。職員も利用者Bへの支援や関与は希薄であったと反省している。

* 以前、利用者Bは、ある職員が来荘した際に「どうせ私のことで来たのではない」などと、寂しい気持ちを世話人に伝えていたことがあった。利用者Aは持病のこともあり、職員の支援が手厚かったので、羨望ややっかみもあったのではないかと思われる。もっと深く利用者Bのことを知らなければいけなかったと反省した。

* 利用者Bの自立度は高いが、隣人とのトラブルについては以前のアパート暮らしの時と同様に解決はしていない。孤独で本当は自分も寄り添ってもらいたかったが、利用者Aに対する嫉妬があり、嫌がらせ行為という形で意思を表していたのではないか。

* グループホームでも地域社会の生活でも対人関係の難しさは同じ。利用者BはAに関心があったのではないか。AもBも過去を背負って現在に至っている。Bについては社会経

	験もあるため、施設が介在できない部分もある。全体を俯瞰するようにおおらかに対応していくことも大切ではないか。 * Aが退去してBが他室の扉を頻繁に叩くという行為が現れておらず、その後、落ち着いているのか、逆に、他の利用者を標的にして似たような行為があるのか。 グループホームの生活は長く続く。その中で他の荘も含めてこのような人間関係のトラブルは今後もあり得る。職員は手を尽くしてはいると思われるが、勉強したほうが良いところもある。今回の会議でこの事例を議案にしたことは勇気がいったと思う。ここで知恵を集めて出る方策を将来に向けていく取り組みにすると良い。現時点で他にも同様のことがあるのならば、施設内だけで解決するのではなく、例えば、医師やカウンセラーなどの専門家のアドバイスを受けていくのも良いのではないか。 * 利用者Aの「自立したい」という想いや保護者の想いに寄り添えなかったことが辛い。空いた部屋に新しく入る方が同様に嫌な思いをするようなことが起きてはいけない。今までにグループホーム内でトラブルはあまり無かった。このような事での退去は初めてのことで、深刻に受け止めている。 * 現在は、職員の夜間の巡回を増やすようにしている。 * 利用者の皆さんはそのことや趣旨は理解されているのか。 * 巡回の目的（利用者みなさんといろいろとお話をしたい。何でも話してもらって大丈夫）を伝えて、利用者や保護者の反応を確かめていってはどうか。 * 昔はグループホーム内で利用者が話し合う機会もあったようだ。 * 社会には社会のルールがあり、共同生活をおくる場にはその場所のルールがある。今後の改善策の一つとして、ペースはともあれ、みんなの暮らしを快適にするための利用者ミーティング（住人ミーティング）をおこなってはどうか。生活のこと、余暇のこと、共同生活での困り事、自分自身のことなどを話あったり、生活のルールを作ったり、確かめあったりするような機会を設けてはどうか。利用者相互の理解、職員にとっての利用者理解につながる機会になるのではないか。 * グループホームは疑似家族の関係が好ましいのではないか。制度で割り切るのではなく、家族としての分担・役割なども体験しながら自立して楽しく暮らせる手法を考えてみてはどうか。 【④その他】 8月9日に日中活動支援センターたけはなで「ふれあい夏まつり」を開催することの告知をおこなった。たけはな荘の利用者のみなさんも参加する。
決定事項 次回開催予定	* 次回会議は夏頃に開催する。 * 今回頂いたアドバイスを活かして、利用者ミーティングの試みについて検討する。